

## 2. 授業評価アンケート調査結果

人間科学研究科では、平成16年度より、毎学期末に授業評価アンケートを実施することとしている。平成19年度は前学期7～8月、および、後学期1～2月に、全科目全受講学生を対象として実施している。有効回収数は合計4,678件であり、その内訳は以下の表（表1および表2）に示す通りである。

表1 前学期提出数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入	合計
院科目	134	268	79	67	55	9	71	683
学部演習	52	48	38	3	17	1	13	172
学部講義	228	277	183	63	91	277	405	1,524
実験実習	18	20	17	3		2	7	67
卒業演習	26	23	9				8	66
合計	458	636	326	136	163	289	504	2,512

表2 後学期提出数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入	合計
院科目	93	142	35	30	15	4	18	337
学部演習	43	58	19	3		1	8	132
学部講義	296	424	306	64	104	81	204	1,479
実験実習	53	41	44	4	10	2	16	170
卒業演習	25	17	2		1		3	48
合計	510	682	406	101	130	88	249	2,166

この授業評価アンケートでは、授業の満足度、受講を決めた理由、授業環境などが、毎回ほぼ定型の質問文により尋ねられている。回収されたデータは数値化して集計されているが、それぞれの担当講師に対するコメントや要望も同時に自由記述により記入・回収され、個別の授業の改善に役立てられている。

以下、数値化されたデータから重要と思われるポイントについて、集計結果をグラフによって示す。

① 授業環境について

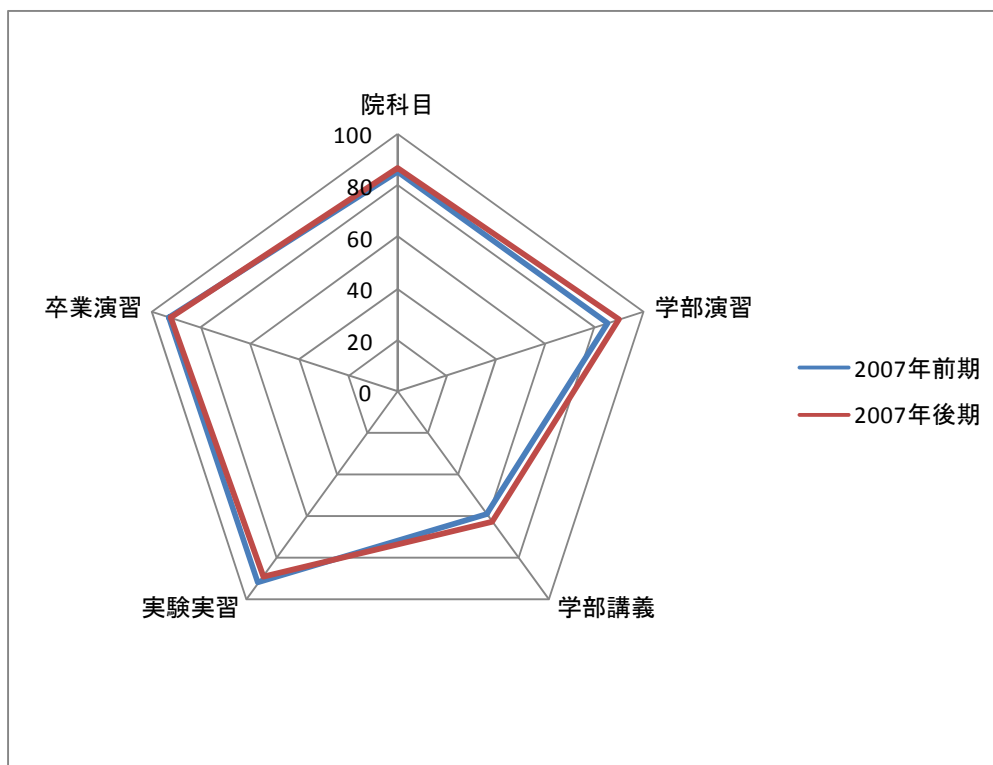


図1 「授業環境に問題なし」の回答の科目形態別比較 (%)

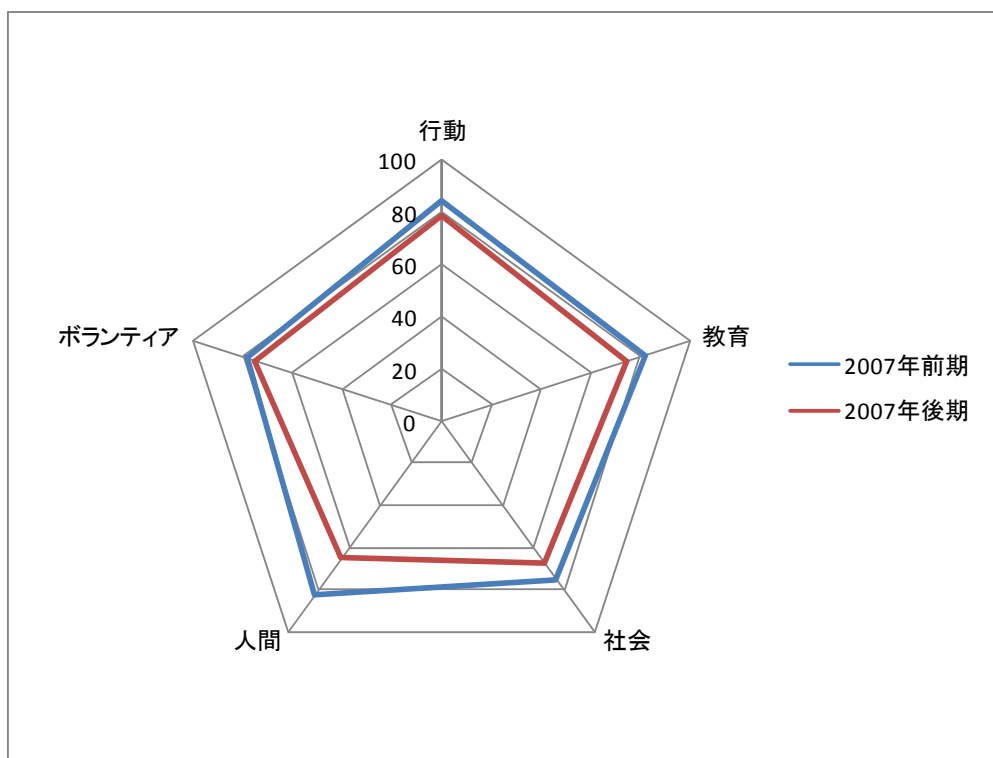


図2 「授業環境に問題なし」の回答の科目形態別比較 (%)

図1、図2は授業環境に関する学生の評価結果である。授業環境については全体として大きな問題はないと思われるが、前後期での比較ではどの科目でも問題なしとする割合が低下している点は注意を要する。

表 3 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（2007 年前期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題無	84.46	82.11	74.63	81.98	78.03	42.32	47.49
マイク	1.25	0.75	0.37	3.60	2.27	24.34	30.82
モニタ	6.02	7.91	9.70	5.41	9.85	30.71	24.20
証明	2.01	0.56	0.00	1.80	0.76	1.12	0.91
教室サイズ	3.26	3.01	11.57	3.60	6.82	14.61	15.53
椅子机	3.76	2.26	1.49	1.80	1.52	12.73	11.19
室温	5.76	5.46	6.72	6.31	5.30	13.86	17.12
騒音	0.75	0.38	0.00	0.00	0.00	0.00	0.91
私語	0.25	0.56	0.37	0.90	0.76	14.98	13.70
携帯電話	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人数	399	531	268	111	132	267	438

表 4 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（2007 年後期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題無	78.35	74.48	66.95	64.63	74.77	44.05	57.00
マイク	0.43	1.57	2.24	0.00	5.41	10.71	11.59
モニタ	3.68	5.24	6.16	6.10	7.21	33.33	21.74
証明	1.30	0.35	0.84	1.22	0.00	0.00	0.48
教室サイズ	8.44	11.36	15.97	12.20	11.71	25.00	14.98
椅子机	1.52	1.92	3.08	2.44	0.00	10.71	10.63
室温	11.69	9.27	9.24	14.63	10.81	14.29	7.73
騒音	0.43	0.00	0.56	0.00	0.90	0.00	1.45
私語	1.08	1.05	0.84	1.22	1.80	10.71	6.28
携帯電話	0.22	0.00	0.28	0.00	0.00	1.19	0.48
人数	462	572	357	82	111	84	207

表 3、表 4 は授業環境についての学生の要望を所属系別に示したものである。前後期を比較すると、いずれの学系でも教室サイズ、室温についての要望の増加が目立っている。授業環境の整備は前年度のアンケートでも必要性を指摘したが、その問題は解決されておらず、さらなる対策が必要であることがわかった。

② 授業選択理由について

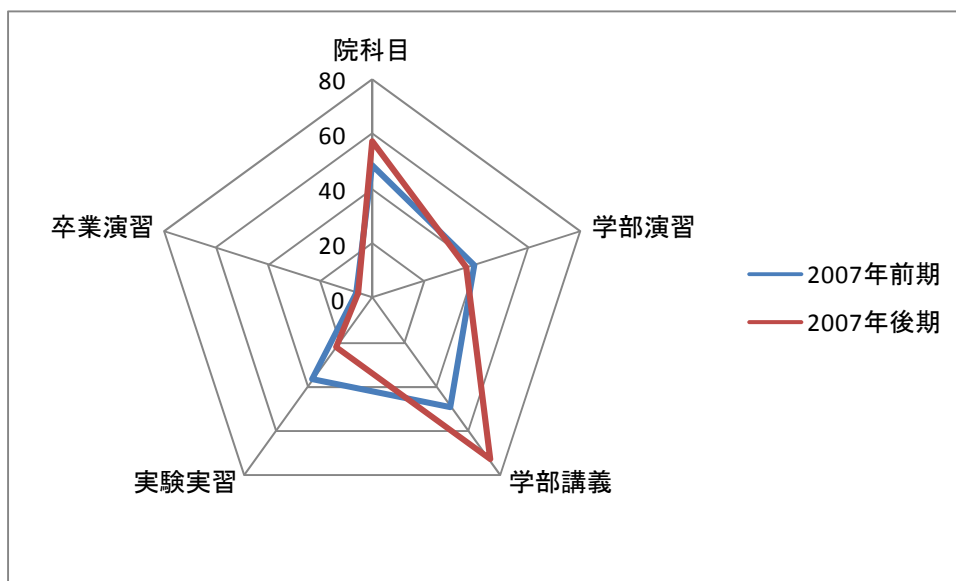


図 3 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の授業形態別比較 (%)

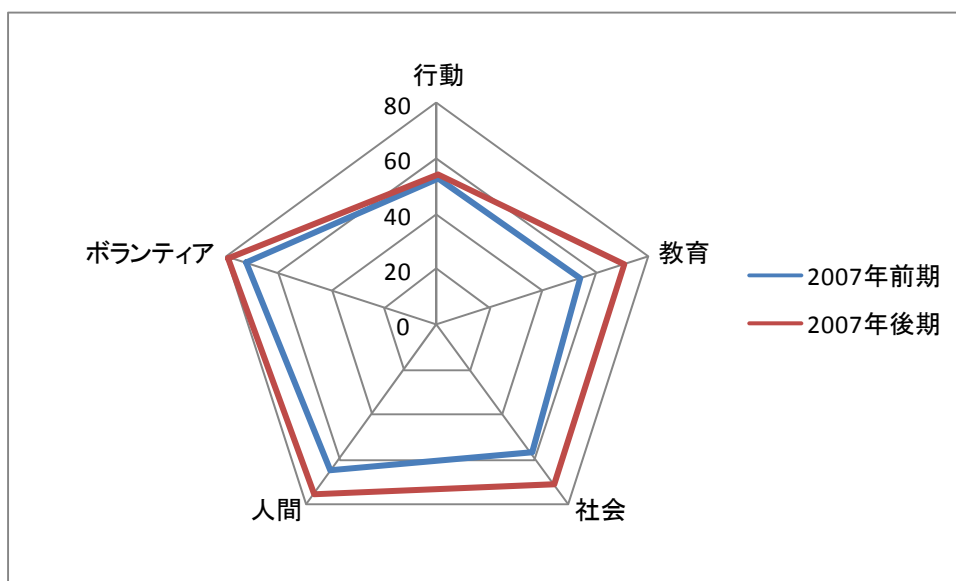


図 4 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の学系間比較 (%)

図 3、図 4 はシラバスが有効に利用されているかどうかを示すために、受講を決めた理由として「シラバスに興味を持った」という項目が選択された率を示したものである。グラフを見ると、学部講義・院科目についてはシラバスが有効に利用されていることがわかる。学系間の比較では、ボランティア人間学系では前後期を通してシラバスに興味を持ったと答える割合が高い。

また前後期の比較では、後期の学部講義においてシラバスに興味を持って選択した率が高くなり、また学系ではいずれの系でもシラバスに興味を持って選択した率が高くなっている。

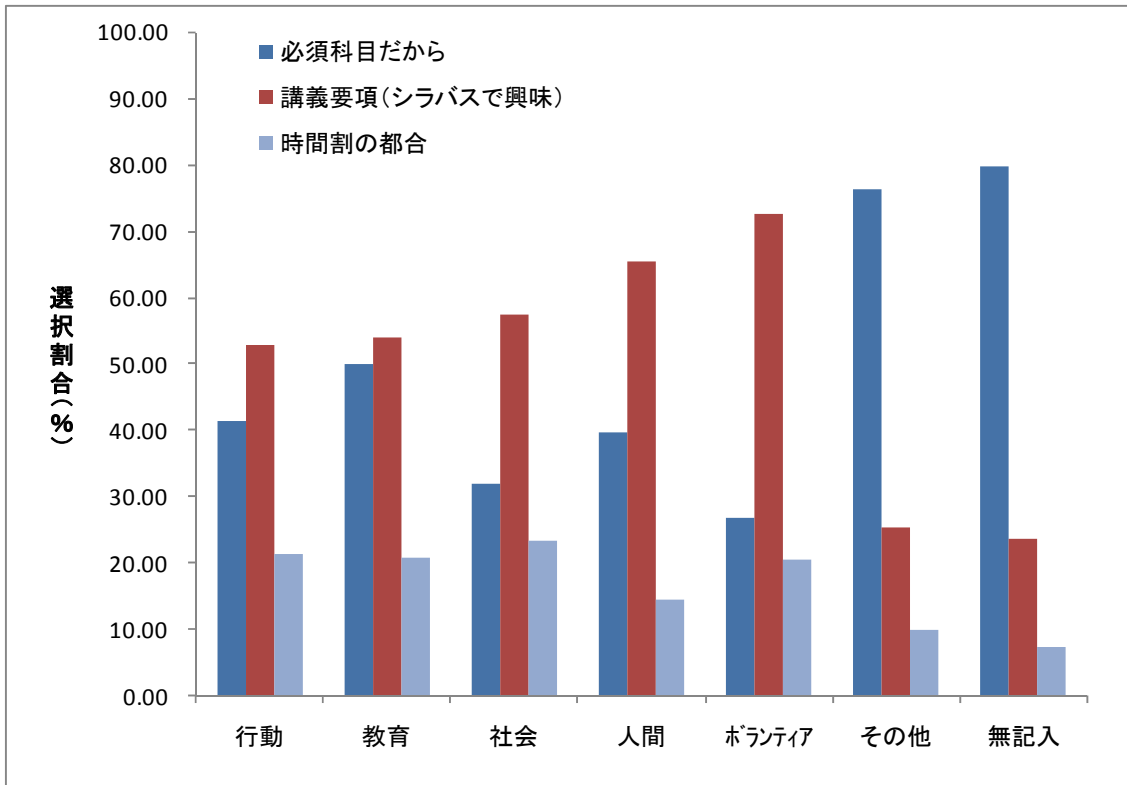


図 5 授業選択理由の学系間比較 (2007 年前期)

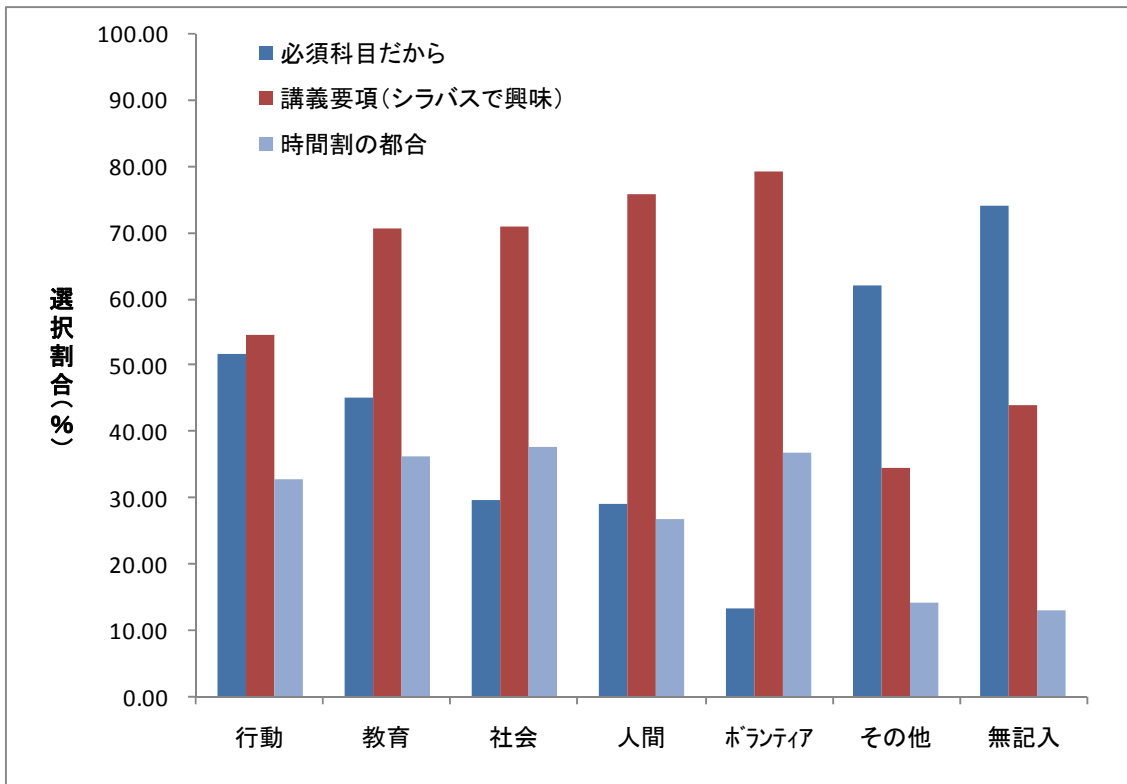


図 6 授業選択理由の学系間比較 (2007 年後期)

図 5、図 6は授業選択理由に対する学系別の結果のうち「必修科目だから」「講義要項(シラバスで興味)」「時間割の都合」のみを取り出し図示したものである。前後期とも、ボラ

ンティア人間学系で、シラバスで興味を引かれ受講したと答える割合が高い。また、後期は全体にシラバスで興味をひかれたという回答が多くなっている。また、必修科目だからという選択理由を挙げる割合に学系間で差が見られることが特徴的である。

③ 授業の満足度について

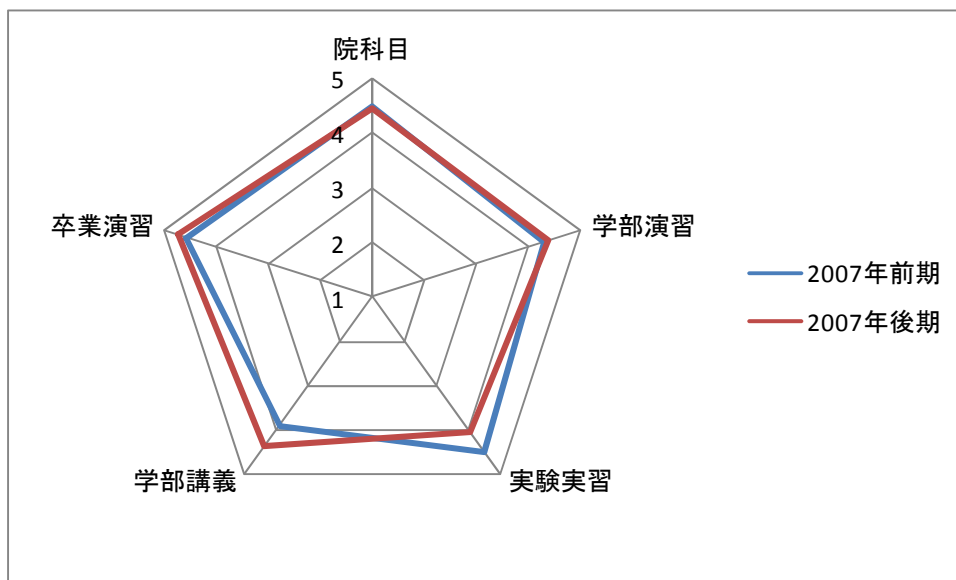


図 7 総合満足度の授業形態別の比較 (平均得点)

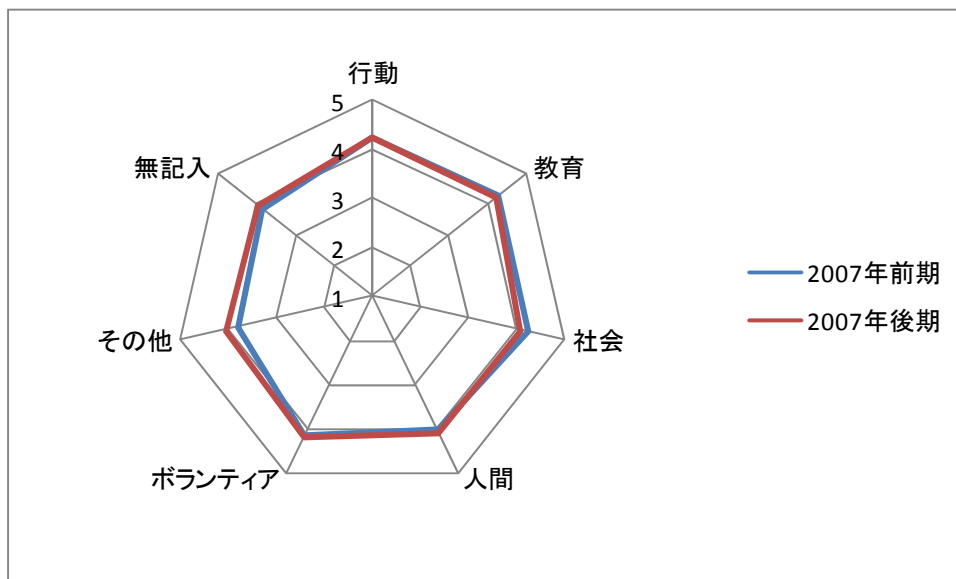


図 8 総合満足度の学系別の比較 (平均得点)

図 7、図 8は授業の満足度について結果を見たものである。前後期での差は全体としてはわずかだが、後期で学部講義の満足度が上昇する一方で実験実習の満足度が低下している点は注意が必要と思われる。なお、学系間での差はほとんどない。

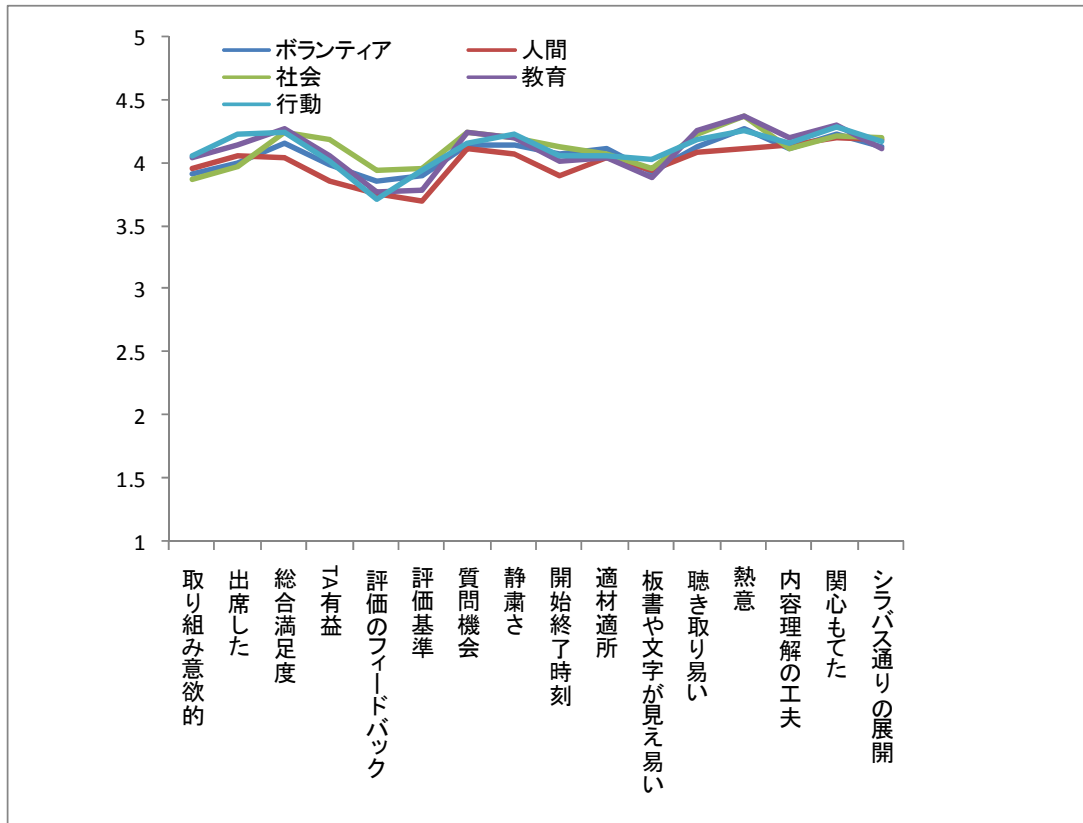


図 9 自分が所属する学系の科目に対する評価（2007 年前半）

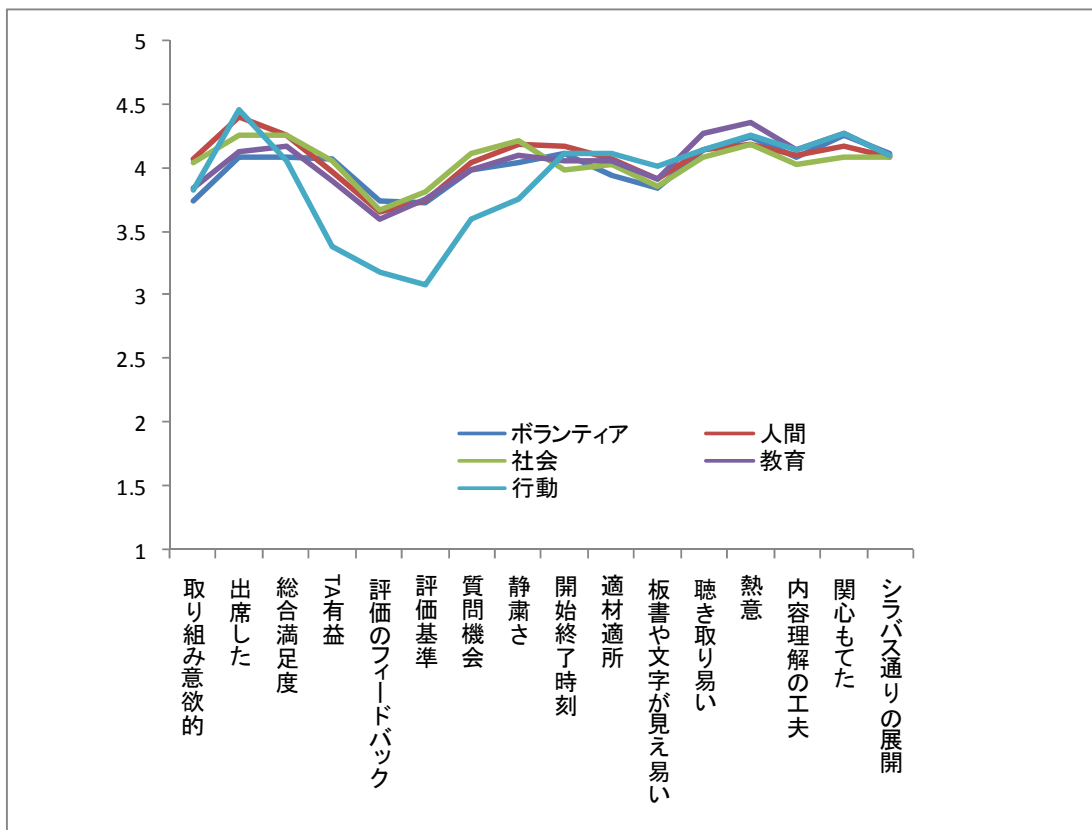


図 10 自分の所属する学系の科目に対する評価（2007 年後半）

図 9、図 10は、各学系に所属する学生が、自分の所属している学系の科目に対してどのよ

うな評価をしているかを見たものである（得点が高いほど肯定的評価を意味している）。評価項目により学系間で差異が認められるため、各学系では所属する学生の要望を検討し、相対的に評価の低い項目については重点的に対策を検討するべきである。特に後期において、行動系で評価や質問機会、TA有益度、静粛さなどの項目での評価の低下が目立っているため検討が必要である。

#### ④ 総合満足度の比較

【学部科目】

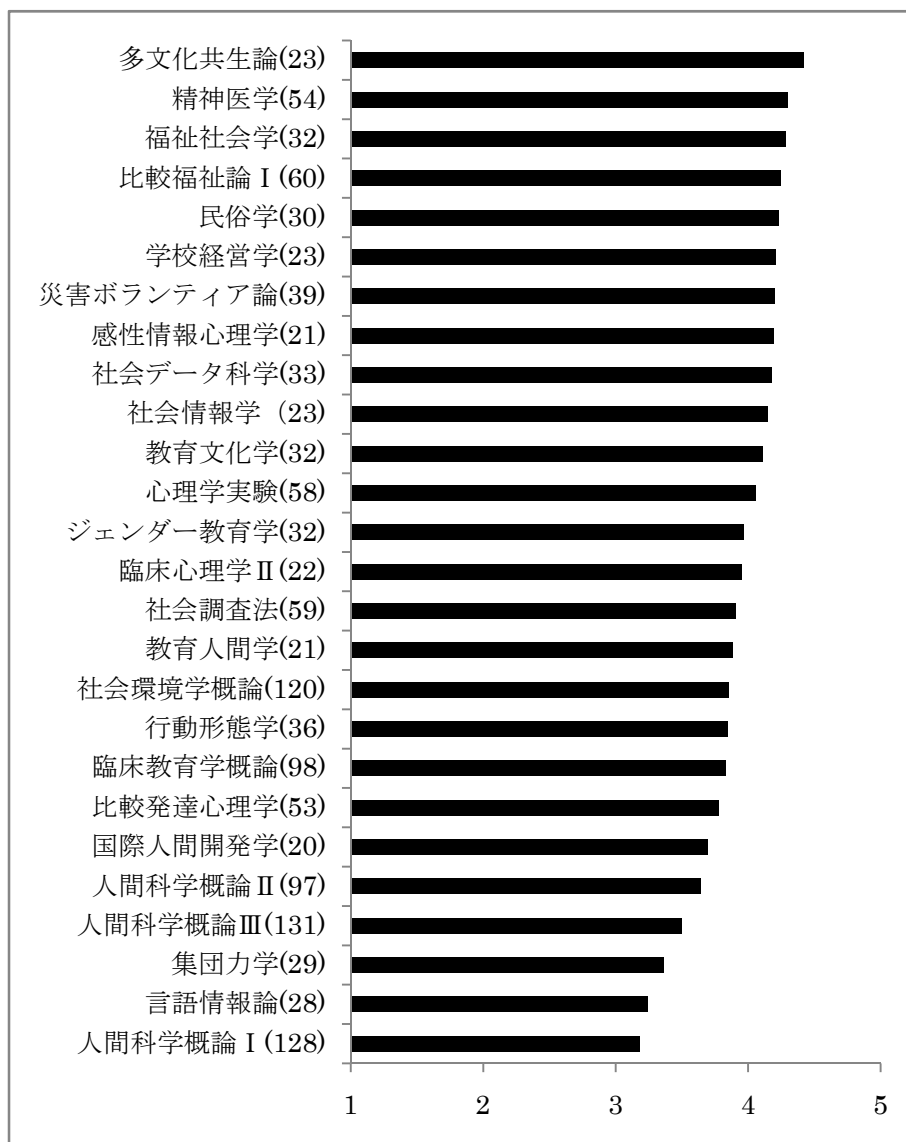


図 11 学部講義科目の満足度の比較（受講生が20名以上）前期



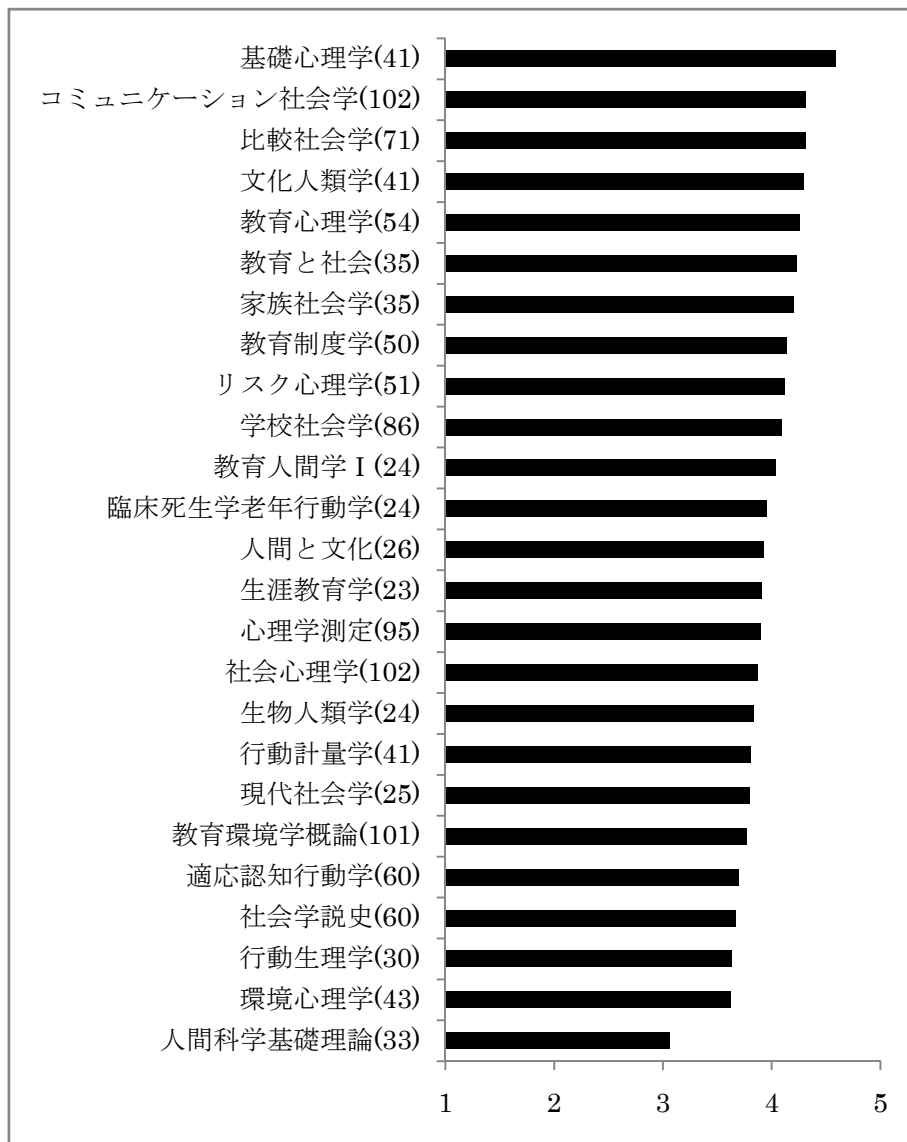


図 12 学部講義科目の満足度の比較（受講生が20名以上）後期

図 11と図 12に、学部講義課目（受講者が20名以上の科目のみ）に関する満足度を示す。得点が高いほど満足であることを意味している。なお、科目横のカッコ内の数字は受講者数を示す。

講義課目で4以上の評価となった科目は、前期では心理学実験から多文化共生論までの12科目、後期では教育人間学 I から基礎心理学までの11科目であった。前期においては、教育学科目が2、行動学科目が2、社会学科目が3、ボランティア人間学科目が3、人間学科目が1、共通科目が1であった。後期においては、教育学科目が5、行動学科目が2、社会学科目が3、ボランティア人間学科目が0、人間学科目が1、共通科目が0であった。

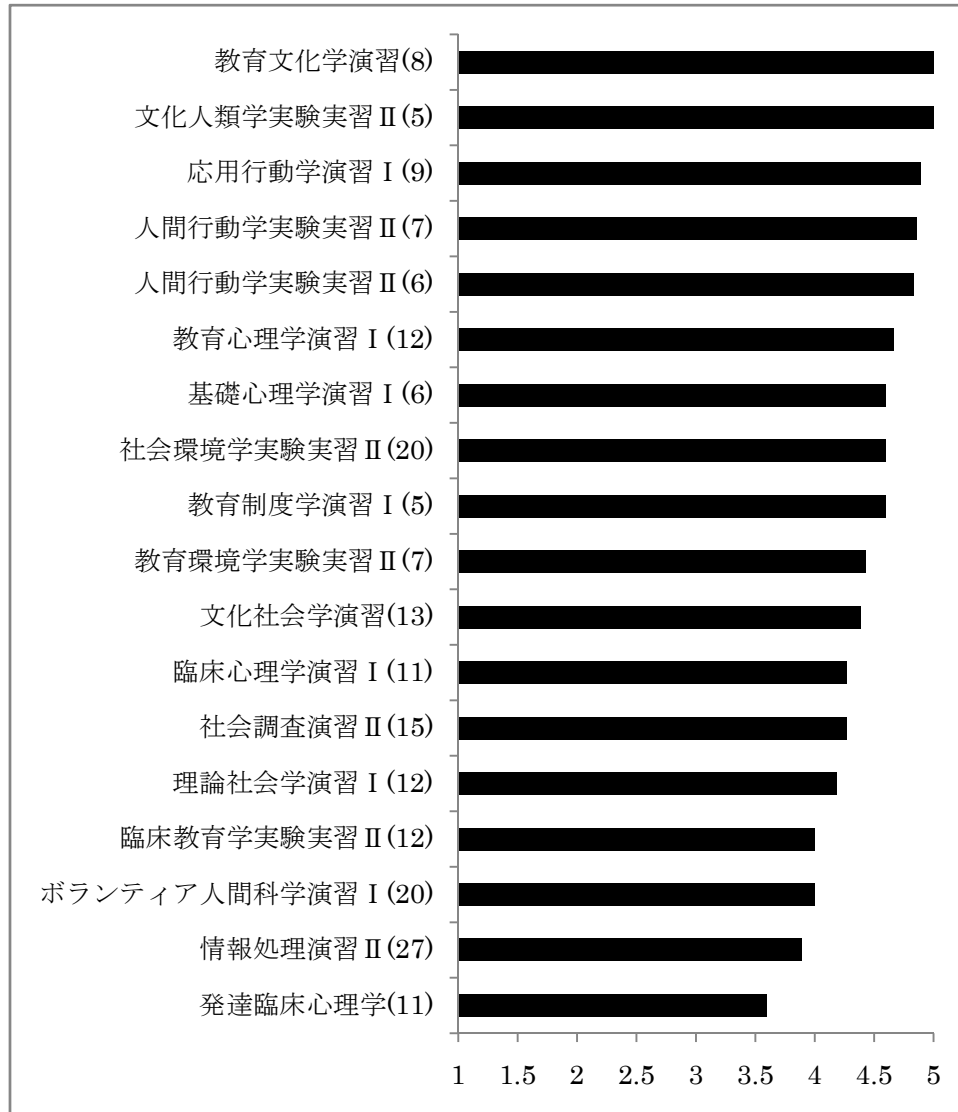


図 13 学部演習・実習科目の満足度の比較（受講生が5名以上）前期

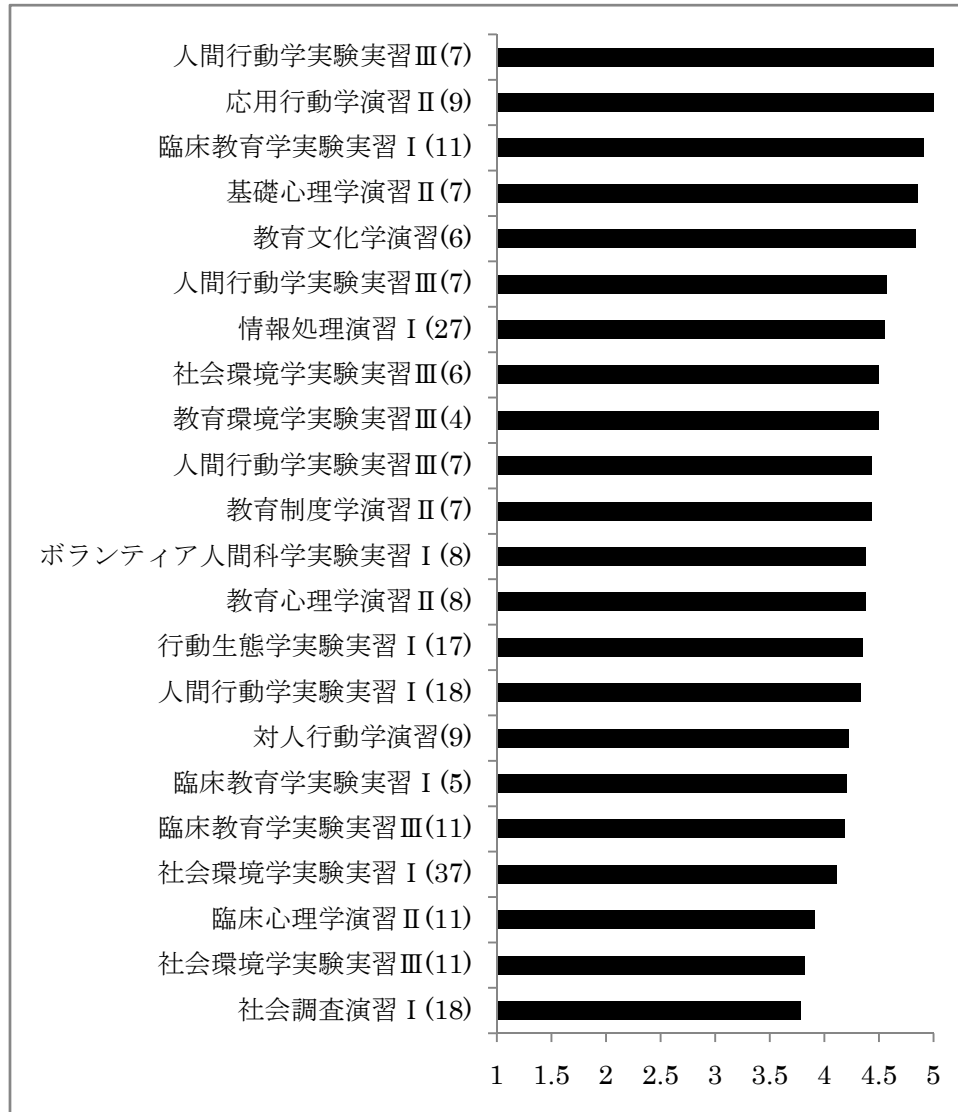


図 14 学部演習・実習科目の満足度の比較（受講生が5名以上）後期

図 13と図 14に、学部演習・実習科目（受講者が5名以上の科目のみ）に関する満足度を示す。いずれも満足度が高い。この傾向はこれまでの調査と同様であるが、演習・実習科目が講義科目と大きく異なっている点は、少人数で経験・実践を行うという密度の高さである。この特徴が学生のコミットメントを高め、満足度を高めることにつながっていると考えられる。

【大学院科目】



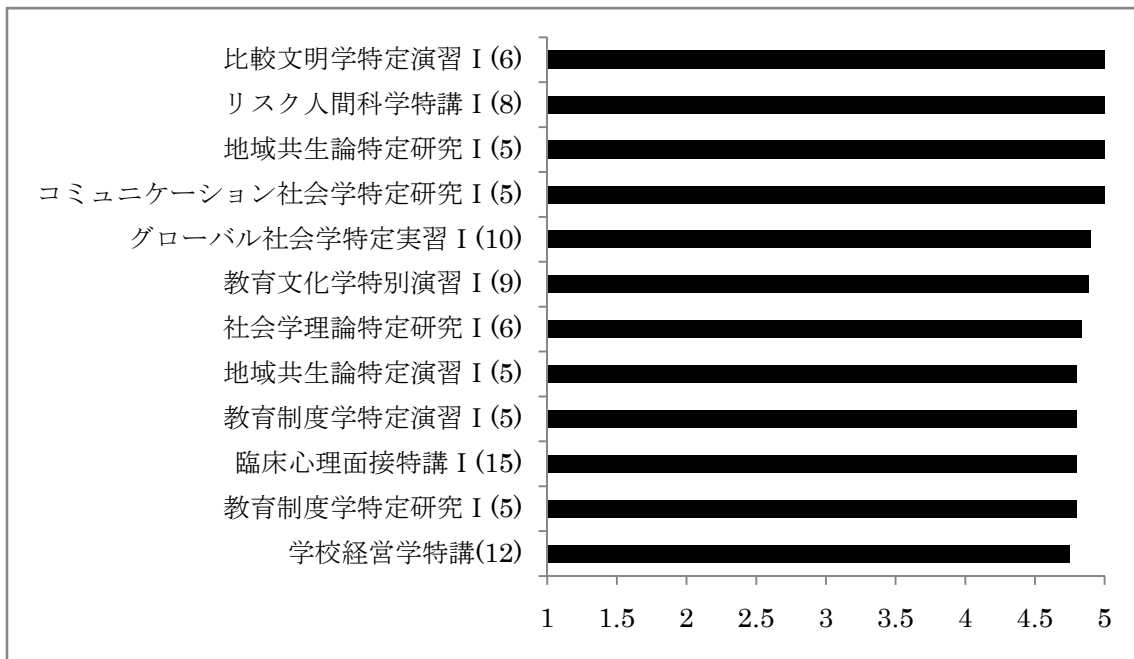


図 15 大学院科目の満足度の比較（受講生が5名以上） 前期

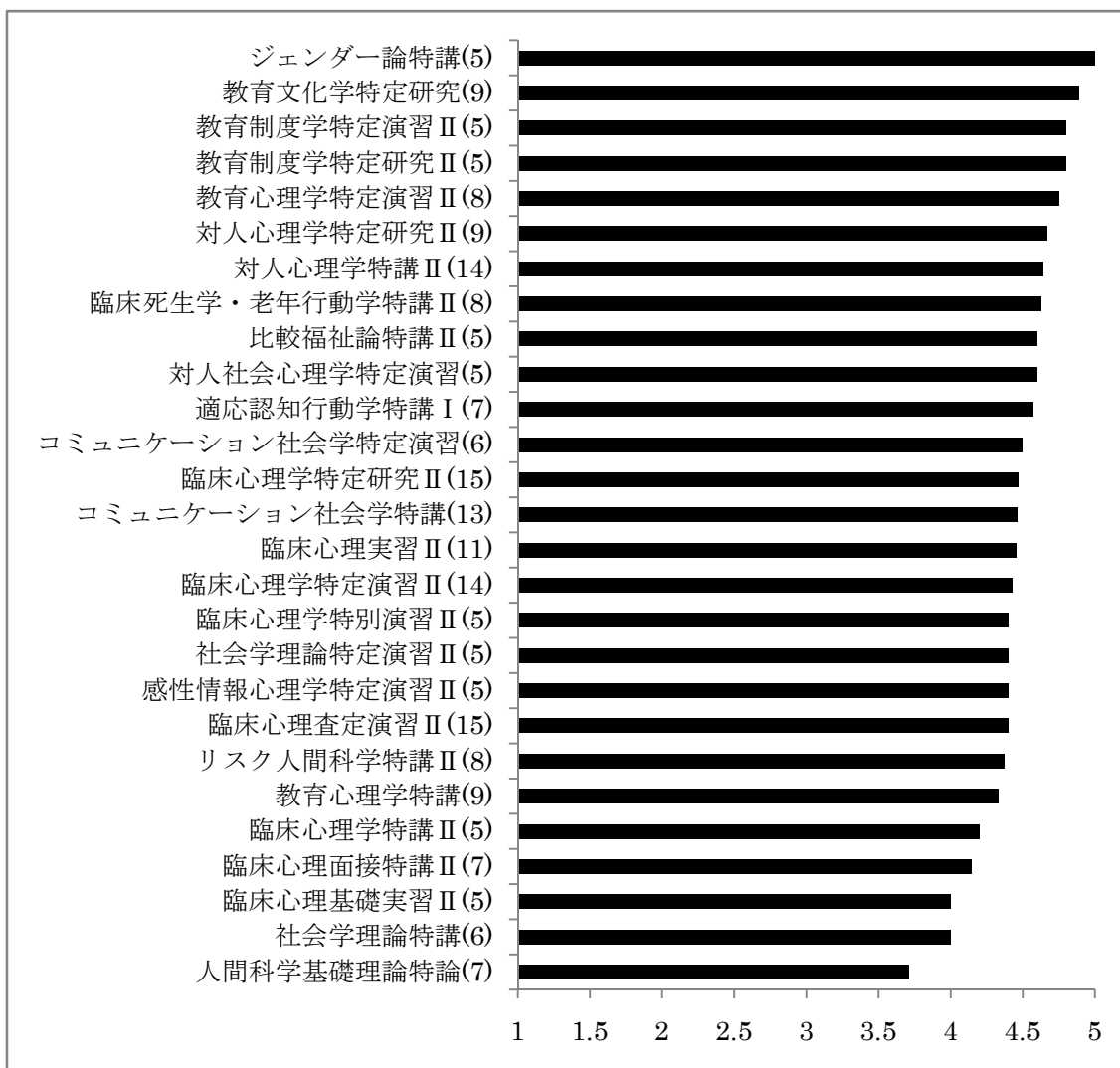


図 16 大学院科目の満足度の比較（受講生が5名以上） 後期

図 15と図 16に、大学院科目（受講者が5名以上の科目のみ）の満足度を示す。いずれの科目も満足度が高い。これは、学部生に比べて学術的関心がより明確になっている大学院生が自分の関心に沿った科目を選択し、それらの科目のほとんどの場合少人数で実施されていることによると思われる。